

晴明神社

【伝説/平安】

五芒星は晴明神社の主要なシンボルであり、伝統的な陰陽論的宇宙観（陰陽道）の 5 要素である木、火、土、金、および水を表しています。これらの要素の相互作用や、その他の宇宙の謎は、安倍晴明（921～1005 年）が専門としていた分野でした。有名な占星術師であり、皇室の相談役であった彼は、死後に神格化され、京都を災厄から守るため、自身が住んでいた土地に祀られるようになりました。

宇宙とその仕組みに関する深い知識に加えて、晴明は神秘的な癒しの力を持っていると信じられていました。そして、占い師や天皇への宗教的助言者として注目を集めたことで、彼の英雄的資質や超自然的な能力に関する伝説が数多く生まれました。これらの物語は、現在に至るまで日本の民間伝承のなかで高い人気を誇っています。

晴明神社の敷地は、元々かなり広大だったと考えられていますが、15 世紀以降は縮小を繰り返してきました。神社は 20 世紀半ばに現在の外観となり、新世代の安倍晴明ファンが集う地となっています。荒俣宏（1947 年～）が 1980 年代に発表してヒットしたファンタジー小説『帝都物語』が大きなきっかけとなり、大昔に存在したこの神秘的な人物に多くの現代人が惹かれるようになりました。